

ひたちなか 埋文だより 46



道理山遺跡の「押出型ポイント」 今日、^{おんだし}「押出型ポイント」と呼ばれる縄文時代前期の石器を紹介しましょう。手伝ってくれるのは、皆さんの先輩にあたる「ふるさと考古学」の卒業生です。山形県の押出遺跡*から200点以上も出土して、この名前が付けられました。市内では^{むべやま}道理山遺跡の他、^{とおぼら}遠原貝塚からも出土しています。東北地方で産出する頁岩^{けつがん}という石が材料です。両面が丁寧に加工されていて、片方の端は、^{えぐ}抉りを入れて^{つま}摘みのような形をしています。…だから、そこを握っていたのでは見えません。そもそも、その格好は何なの？ (2017.2.4)

CONTENTS

第14回企画展 古代常陸の製塩土器／公開講座「ひたちなか市の考古学」第10回

「出会い、別れ、そして夢考古学の旅路」第18回 茨城県考古学協会の発足 (川崎純徳)

調査報告 ひたちなか市磯崎東古墳群の調査—2011・2012・2015・2016年— (稲田健一)

横穴墓を歩く⑩ 城山横穴群 (井上勇也)

ひたちなか市内の発掘調査 2016

堀口遺跡の第27次調査 (萩原宏季)

鷹ノ巣遺跡の第4次調査

1ケース・ミュージアム41 1からの縄文原体

ひたちなか市の古墳⑨ 三反田古墳群・高井古墳群

歴史の小窓⑩ 漆のパレット

虎塚古墳花便り⑩ イカリソウ

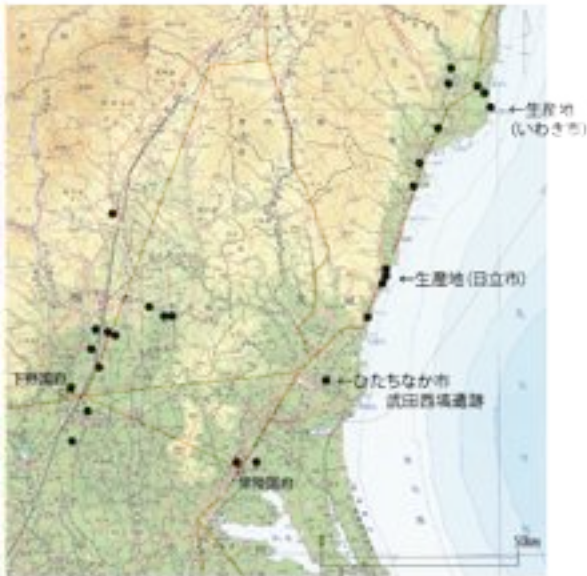
ほか

*佐藤庄一ほか 1990『押出遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第150集 山形県教育委員会

第14回企画展

古代常陸の製塩土器

2017年1月29日（日）～5月14日（日）



製塩土器の分布

ひたちなか市^{たけだしほ}武田西埦遺跡から出土した一点の製塩土器は、一〇世紀中頃に、土器入りの塩が集落にもたらされていたことを教えてくれています。現代の私たちと同じように、古代の人びとにとっても、塩分をとることは、日常の食生活の上でも大切なことだったと思われますが、どのようにして塩分を取っていたのかは、実はまだよくわからないのです。武田遺跡群では製塩土器が一点しか出土していないので、土器入りの塩だけで需要をまかなっていた可能性は低そうです。では、なぜ土器入り塩は集落にやってきたのでしょうか。今回の展示では、そうした難題の解決に向かう第一歩として、常陸国から出土した奈良・平安時代の「製塩土



展示のようす（茨城県の製塩土器）

器」について考えてみました。
製塩土器の分布 ひたちなか市周辺の製塩土器の出土分布を見ると、山が海にせまる茨城北部からいわき市にかけての生産地周辺や、役所・寺院・居宅などから出土していることがわかります。
茨城県では、日立市北部海岸地域に製塩土器の出土が集中することからみて、そのあたりで海水を土器で煮つめていく塩づくりが行われたと考えられます。しかし残念ながら、製塩炉が



茨城県における製塩土器の変遷

茨城県の製塩土器は、生産地と思われる日立市の出土品が大半を占めています。その形は、9世紀前半頃を過渡期としながら、平鉢形（大型）から筒形（小型）へと変遷します。現在のところ、最も古いものは、北茨城市古屋敷1号住居跡出土の平鉢形製塩土器で、8世紀前半になります。また、最も新しいものは、ひたちなか市武田西塙遺跡227号住居跡出土の筒形製塩土器で、10世紀中頃です。なお、日立市金木場遺跡の8世紀前半の土器のなかに、外面に粘土接合痕を明瞭に残す小型深鉢形土器がみられますが、もしかするとこうした土器も古手の製塩土器になるのかもしれない。

見つかつていないので、どのような場所でのような炉を用いて塩づくりをしたのかははっきりとしていません。宮城県の松島湾周辺では、古代の製塩炉がいくつか調査されていますので、そうした炉の立地や構造が参考になると思われます。

茨城県の製塩土器

茨城県出土の製塩土器

は、平鉢形の大型品から、筒形の小型品へと変遷します。大型品は八世紀第4四半期を中心に、その前後の時期にみられます。その時期は、ちようど律令国家が蝦夷と戦争をしていた時期にあたります。七八八年には、東国に糯と塩を陸奥国に運ぶようという命令も出ていますので、塩生産が戦争と関わっている可能性があります。

ます。

日立市金木場・向畑遺跡では、八世紀末から九世紀初め頃の集落から、平鉢形の製塩土器が出土しますが、その時期の集落からは、「午家（うまのいえ）」と書かれた墨書土器や、馬具（帯金具）、馬牛の管理に用いる焼印なども出土しており、塩を馬の飼育に用いていたことが想像できます。こうした馬も戦争に送られたのかもしれません。また九世紀中頃の集落からは、筒形の製塩土器が出土します。この時期は、馬の飼育をうかがわせる資料は出土していませんが、用途不明の不整形の鉄片が多数出土しています。『延喜式』には、馬革の生産に塩を使うことが記されていますが、もしかするとこの鉄片は、皮なめしの道具（スクレイパー）なのかもしれません。

ひたちなか市武田西塙遺跡からは、一〇世紀第2四半期に位置付けられる製塩土器が出土しています。同時期の第六三号住居跡からは大量の食器が出土しましたが、そのうちの一点に、「宴」と墨書された可能性のある杯が出土しているのが注目されます。宴会の食事のために塩が求められたのでしょうか？

福島県いわき市の製塩土器 小茶円遺跡は夏井川河口部の集落跡ですが、製塩土器が多量に出土しています。そのなかに、生産地である薄磯貝塚の製塩土器と同じとみられる製塩土器がありますので、薄磯貝塚付近で焼かれた塩が小



展示のようす（福島県いわき市の製塩土器）

茶円遺跡にもたらされていたようです。なお、小茶円遺跡からは魚網錘が多く出土していますので、塩が魚の加工に用いられたのかもしれない。せん。

栃木県の製塩土器 那珂川町温泉神社北遺跡は、近年、津野仁氏によって製塩土器の出土が確認された遺跡です。多量の漁網錘も出土しているため、アユなどを煮塩や塩漬けにしたのでしよう。近くには那須郡衙跡もありますので、郡の有力者との関わりも考えられます。上三川町多功南原遺跡は、河内郡衙跡や下野薬師寺跡に挟まれた地域にあり、多くの居宅が見つかった遺跡ですが、多くの製塩土器の出土は、有力



展示のようす（栃木県の製塩土器）

者による土器入り塩の利用がうかがえる好例といえます。また、下野市下野国分尼寺跡では、製塩土器の出土地点が井戸と近接していることから、その付近に九世紀の大炊屋（調理施設）が想定されています。

製塩土器の塩類風化 展示の最後に、二〇一四年一〇月に私たちが行った製塩実験でできた塩入り土器を展示しました。塩を入れたまま二年以上置いたものです。見てみると、土器の底がこなごなになっています。これは、塩分を含む水分が土器の底部にしみ込み、土器を



展示のようす（実験した製塩土器）

壊しているもので、「塩類風化」といいます。消費地から出土する製塩土器は、底部が残っていないものが多いのですが、その理由はこの実験土器を見るとよくわかります。

これからの研究 今回の展示では、遺跡ごとに製塩土器が出土する理由を考えてみました。これが、これからの研究においても、こうした積み重ねと比較検討が、古代の塩利用の姿を浮き彫りにしていくのだらうと思いました。

公開講座「ひたちなか市の考古学」第一〇回
古代の塩生産

二〇一七年二月十八日から三月一日の毎週土曜日に、公開講座「ひたちなか市の考古学」第一〇回「古代の塩生産」を開催しました。三名の研究者をお招きし、古代日本の塩生産についてお話しいただきました。なお、今回の講座は、後日、記録集を刊行する予定です。



月/日	演題	講師
2/18 (土)	古代東国の塩生産	東海大学 田尾 誠敏 氏
2/25 (土)	見えない塩を考える	祭祀考古学会 坂本 和俊 氏
3/4 (土)	茨城県における古代の塩生産	(公財) ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社 佐々木 義則
3/11 (土)	東北地方における塩の生産と流通	宮城県多賀城跡調査研究所 高橋 透 氏



宮城県多賀城跡調査研究所
高橋 透 氏

「宮城県南部から福島県浜通りにかけては、郡の役所と、製塩土器がたくさん出土する遺跡が、セットになって出てくる。おそらく、郡が塩の生産に関与していたろう。しかし多賀城の場合は、国（陸奥国）が管轄していたわけです。」



祭祀考古学会
坂本 和俊 氏

「製塩土器がない時代、塩・灰にぎりが流通していた。それを使うときには、土器に入れて水を注ぐと、濃い塩水ができあがる。そのうわ水を利用して、沈殿物は竈や炉のそばに捨てた。でも、（沈殿物の中の焼けた小石などは）報告書には出てこない。」



東海大学
田尾 誠敏 氏

「東日本の製塩は、細々と地元のためにやっている製塩もあって、特に関東地方の、常陸より南はそのようです。」「（南関東では）塩をつくっていたとしても、その漁村が海産物を加工するために行なったもので、塩を多賀城へと持って行くような大がかりなものではないだろうと思います。」

歴史の小窓 その一八

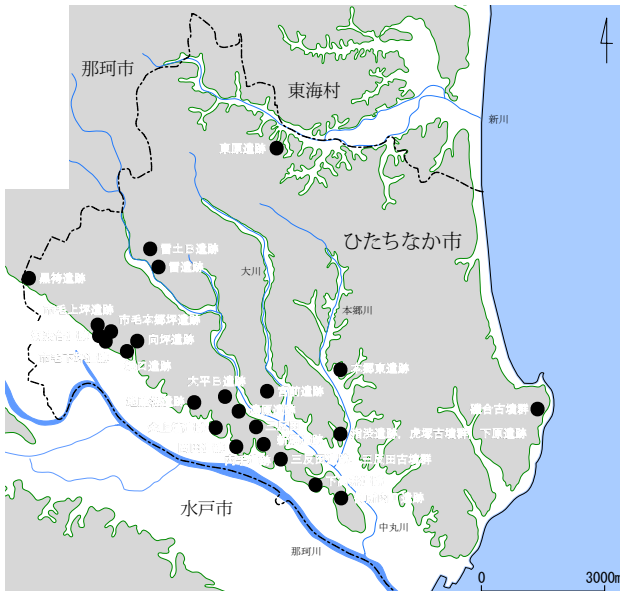
漆のパレット

以前、漆塗りを習っていたことがありました。そのときに「クロメ」という工程を体験しました。漆の木から採取した樹液をこしたものを生漆といいますが、その生漆を、熱を加えながらへらで十分にねりこんで成分を調整する工程が、クロメです。クロメられた漆は、塗りに適した暗黒褐色の漆になります。



集落遺跡を調査していると、ごくまれに、漆の入った杯が出土することがあります。写真は武田西塙遺跡第一七二号住居跡から出土した須恵器杯ですが、底に漆が固まっています。分析してないので、ほんとうは漆と断定できないのですが、漆独特の、しわしわに固まっている状態からみて、たぶん漆でよいのでしょうか。遺跡から出土する漆は、褐色であったり黒かったりしますが、この漆は褐色をしてるので、十分にクロメられていないようにもみえます。さて、武田西塙遺跡の古人は、この漆を、何に塗ろうとしていたのでしょうか。

(佐々木義則)



堀口遺跡の第27次調査 堀口遺跡は、ひたちなか市堀口にある弥生時代から平安時代にかけての集落跡です。今回の調査では、弥生時代後期の住居跡が2基、古墳時代中期から後期にかけての住居跡が9基、奈良・平安時代の住居跡が11基確認されました。住居跡が複雑に重なり合い密集していることから長い間集落が営まれていたことがわかります。この集落是那珂川左岸の台地上の縁辺部に位置しており、遺跡のすぐ南の斜面部からは清らかな水が豊富に湧き出ています。飲み水の確保が容易で、なおかつ那珂川の氾濫の影響を受けにくい高台の土地は、集落を営むのに格好の場所であったようです。

古墳時代後期の第84号住居跡は、^{かまど}竈の残存状態が良好で、薪をくべる部分を切石で補強していた様子がよくわかります。また、煙^{えん}道と呼ばれる煙出しの施設が住居の壁面から外に出ない古い竈の形をしていることから、この地域に竈が導入されて間もないころのものと考えられます。また、住居を建て替えたあとも見つかり、長期に渡り人が住み続けていたことがわかりました。

今回の調査で注目される遺物の中に「土馬^{どば}」があります。土馬とは馬形の土製品のことで、



雨乞いや飢饉の際のまつりに使用されたと考えられています。今回出土したものは、全長8cm程の小さなもので、脚の部分が欠損していました。意図的に壊された状態で発見された例もあることから、この土馬もまつりの際に壊された可能性があります。土馬はピットから出土したもので、作られた年代を特定することはできませんでしたが、古墳時代の終わり頃から平安時代にかけて作られたものと考えられています。科学が発達していない古代において祈りは今よりも遙かに切実なものであったことでしょう。この土馬は古代の堀口の人々からどの様な願いを託されたのでしょうか。

(関東文化財振興会 萩原宏季)

二〇一六年度は、ひたちなか市内において、試掘調査二九件、本調査三件を実施しました。指洪遺跡では、縄文時代の住居跡を確認するとともに、虎塚古墳(一号墳)の南西側に、古墳と同時期の竪穴建物跡を一基確認しました。堀口遺跡では、狭い調査区にもかかわらず、弥生・古墳・平安の各時代の住居跡を調査し、堀口遺跡における遺構密集度の高さがうかがえました。向坪遺跡では、平安時代の住居跡を調査し、この遺跡が平安時代を中心とすることがよくわかる調査となりました。本郷東遺跡では、古墳時代後期の住居跡から二一個体の杯が重ねられた状態で出土し、とても貴重な出土例となりました(下の写真)。



多くの土器が重なって出土しました
ひたちなか市馬渡の本郷東遺跡では、第3号住居跡の床面から多くの杯類が重ねられた状態で出土しました。

2016（平成 28）年度市内遺跡調査一覧表

No	遺跡名	回数	所在地	時期	種別	遺構・遺物
1	ほりくちいせき 堀口遺跡	25 次	堀口	4 月	本調査	住居跡 9 基（弥生 2，古墳 4，平安 3）を調査。縄文土器，弥生土器，須恵器，石器が出土。
2	みたんだしんぼりいせき 三反田新堀遺跡	18 次	三反田	4 月	試掘	なし
3	いちげほんごうつぼいせき 市毛本郷坪遺跡	7 次	市毛	5 月	試掘	住居跡 10 基（奈良・平安），土坑 1 基，溝 1 条を確認。土師器，須恵器が出土。
4	ほんごうむがしいせき 本郷東遺跡	4 次	馬渡	5 月	試掘	住居跡 3 基（古墳 2，奈良・平安 1）を確認。土師器，須恵器が出土。
5	ほりくちいせき 堀口遺跡	26 次	堀口	5 月	試掘	なし
6	むがいつぼいせき 向坪遺跡	3 次	堀口	5 月	試掘	住居跡 4 基（平安 3，時期不明 1），ピット 8 基を確認。土師器，須恵器が出土。
7	むがしほらいせき 東原遺跡	8 次	高野	6 月	試掘	溝 1 条を確認。
8	おかだいせき 岡田遺跡	29 次	三反田	6 月	試掘	なし
9	じさるいせき 地蔵根遺跡	2 次	勝倉	7 月	試掘	住居跡 3 基（古墳後期 1，奈良 1，平安 1），ピット 1 基を確認。土師器，須恵器，陶器，軽石が出土。
10	いちげほんごうつぼいせき 市毛本郷坪遺跡	8 次	市毛	7 月	試掘	住居跡 4 基（奈良・平安）を確認。土師器，須恵器が出土。
11	むがいつぼいせき 向坪遺跡	4 次	堀口	7 月	本調査	住居跡 4 基（平安），溝 1 条，ピット 38 基を確認。土師器，須恵器，馬歯が出土。
12	ほんごうむがしいせき 本郷東遺跡	5 次	馬渡	8 月	本調査	住居跡 4 基（古墳 3，時期不明 1）を確認。土師器，須恵器，石器，鉄製品が出土。
13	おおいびらいせき 大平 B 遺跡	1 次	大平	8 月	試掘	縄文土器が出土。
14	みやまえいせき 宮前遺跡	1 次	中根	9 月	試掘	土坑 4 基，ピット 1 基を確認。縄文土器が出土。
15	みやまえいせき 宮前遺跡	2 次	中根	9 月	試掘	土坑 1 基を確認。
16	とほらいせき 遠原遺跡	3 次	金上	9 月	試掘	住居跡 1 基（縄文）を確認。縄文土器，須恵器，石器が出土。
17	いちげかみつぼいせき 市毛上坪遺跡	16 次	市毛	9 月	試掘	住居跡 2 基（古墳）を確認。土師器，須恵器が出土。
18	うちでいせき 内手遺跡	2 次	三反田	10 月	試掘	住居跡 2 基（奈良・平安）を確認。土師器，須恵器が出土。
19	むがいつぼいせき 向坪遺跡	5 次	堀口	10 月	試掘	住居跡 1 基（9 世紀），ピット 7 基を確認。土師器，須恵器が出土。
20	いそあいてふんぐん 磯合古墳群	3 次	磯崎町	10 月	試掘	円墳 1 基，溝跡 1 条を確認。
21	つくばいせき 筑波台遺跡	4 次	市毛	11 月	試掘	溝跡 3 条，ピット 2 基，土坑 3 基（近世 1）を確認。土師器，須恵器が出土。
22	ほりくちいせき 堀口遺跡	28 次	堀口	11 月	試掘	土師器，須恵器が出土。
23	いかづちいせき 雷遺跡	5 次	東石川	11 月	試掘	なし
24	かながわいせき 金上埜遺跡	10 次	金上	12 月	試掘	住居跡 5 基（奈良・平安 4，時期不明 1），溝跡 3 条（中世 1），土坑 15 基（中世 2），ピット 42 基を確認。土師器，須恵器，陶器，内耳土鍋，かわらけ，鉄鏝，砥石が出土。
25	くろばいせき 黒袴遺跡	5 次	津田	12 月	試掘	住居跡 3 基（弥生 1，古墳 2）を確認。縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器，石器が出土。
26	いちげしもつぼいせき 市毛下坪遺跡	12 次	市毛	12 月	試掘	土坑 4 基（近世 2）等を確認。土師器，須恵器，陶器，かわらけが出土。
27	みやまえいせき 宮前遺跡	3 次	中根	1 月	試掘	溝跡 1 条，土坑 3 基を確認。
28	いかづち B 遺跡 雷土 B 遺跡	2 次	田彦	3 月	試掘	縄文土器が出土。
29	みたんだしんぼりいせき 三反田遺跡 みたんだしんぼりいせき 三反田古墳群	6 次 2 次	三反田	3 月	試掘	住居跡 1 基（古墳），溝跡 3 条，土坑 1 基を確認。縄文土器，土師器，須恵器が出土。
30	さしづいせき 指次遺跡 しもほらいせき 下原遺跡 とらづかふんぐん 虎塚古墳群	3 次 4 次 11 次	中根	1 月 ～ 3 月	試掘	古墳 1 基，住居跡 5 基（縄文 4，古墳 1），溝跡 2 条，土坑 8 基を確認。縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器，石器が出土。

鷹ノ巣遺跡の第4次調査

鷹ノ巣遺跡は、ひたちなかインターチェンジのすぐ東側の台地上に位置しています。今回の調査は、市営たかのす霊園拡張事業に伴うもので、一九九二年度・二〇〇五年度・二〇一二年に続き四度目となります。調査対象面積は、八、五七四㎡です。

調査は五月一七日から十一月三〇日まで実施しました。調査では、弥生時代の住居跡一基、古墳時代後期の住居跡八基、奈良・平安時代の住居跡七基と土坑一基・溝状遺構一条などを確認しました。

古墳時代の住居跡では、八基の内四基が一辺

七mを越える大型の住居跡で、一遺跡の一時期に重複することなく四基もの大型住居跡が確認されるのは市内で初めての事例です。

出土遺物としては、古墳時代後期の第七七号住居跡の出入り口周辺から、土師器の杯形土器が重なったような状態で出土しました。また、竈の西側の床面からは、直径二㎝ほどの紺色のガラス玉も出土しています。古墳時代後期の住居跡からガラス玉が出土したのは、市内で初の事例です。

今回の調査の結果、鷹ノ巣遺跡では八七基の住居跡の存在が明らかとなりました。今後は、近隣の虎塚古墳や十五郎穴横穴墓群との関連を検討していく予定です。

(稲田健二)



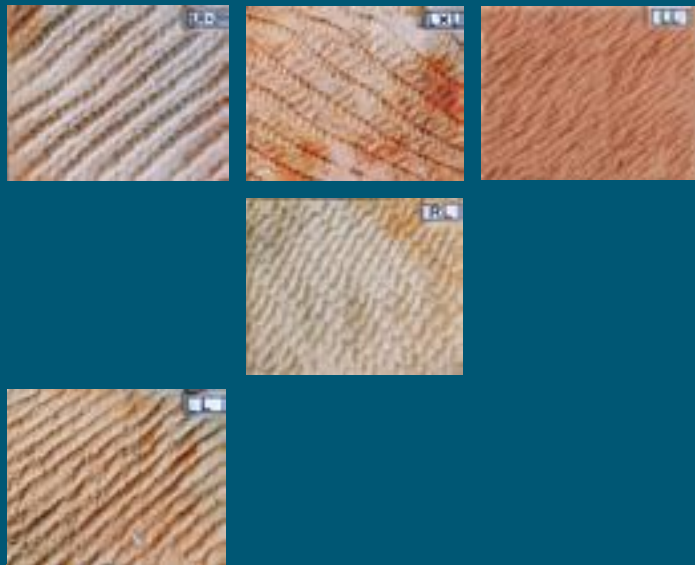
鷹ノ巣遺跡2016年度調査区（左上隅が北）



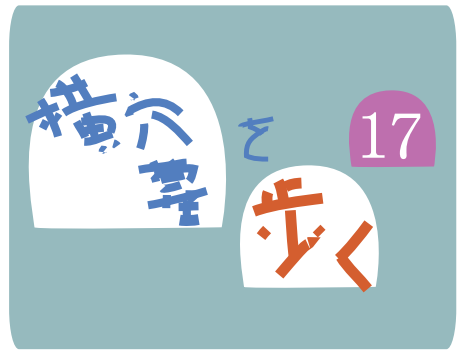
第77号住居跡



第77号住居跡出入り口周辺遺物出土状況



「縄文原タイ・ル」非売品



福岡県田川郡福智町

城山横穴群

井上 勇也

(福智町教育委員会)

国史跡城山横穴群は、中元寺川の右岸、標高21mから39mほどの独立丘陵上に位置する。遠賀川の中流域に含まれる地域であり、福岡県下でも横穴墓集中地帯として知られている地域である。城山横穴群は、40〜50基程度の横穴墓群として、古くからその存在が知られていた。調査の結果、規模と密集度は日本有数であり、平成26年度史跡に指定された。田川郡では初の史跡指定、筑豊地域でも約半世紀振りの出来事である。

城山横穴群は約27,000㎡と限られた南北丘陵上で、横穴墓222基、横穴墓に伴う墳丘12基、横穴式石室墳1基、中世城郭を良好な保存状態で確認できた。九州内でも城山横穴群の分布密度は最も高く、九州の横穴群の代表的存在と言える。この規模と分布密度の高さ、保存状態の良さが城山横穴群の一番の特徴である。

城山横穴群では横穴墓に伴うと考えられる、12

基の墳丘が確認された。福岡県内では横穴墓に伴う墳丘の存在が数例知られていたが、今回の調査結果はその地域の特徴を顕著に示す事例であり、群中の数の多さは代表例として重要である。

城山横穴群では横穴墓が造られ始めるのは六世紀前半で、田川地域の中では最も古い。これまで、六世紀中頃に横穴墓の築造を開始したとされてきた田川地域の横穴墓の初現時期を遡ることとなった。城山横穴群で最も新しい遺物は七世紀後半の時期でその頃の追葬が考えられる。このことから城山横穴群は100年以上も継続して営まれた墓域と考えられ、開始から終焉までの変遷過程を追うことができる貴重な事例である。

複数の須恵器大甕や短頸壺、また坏の中に納められた状態で出土したハマグリなどは、墳丘での食物供献儀礼を想定させる遺物である。古墳時代の祭祀行為の一端を知ることができる事例として貴重である。また、墳丘に樹立されたと考えられる円筒埴輪片も出土している。横穴墓墳丘への埴輪樹立の行為は類例が少なく貴重な事例である。金銅装の馬具を持つ横穴墓の存在等とともに横穴墓間の階層差等の想定が可能な事例である。

墓室の平面形態では、遠賀川流域や北部九州の傾向と一致する。天井形態についてはドーム形が主流をなすことが確認でき、この傾向は周防灘沿岸地域の特徴に合致している。城山横穴群の所在する田川地域は周防灘沿岸地域に接しており、墓室に見られる特徴は遠賀川流域と周防灘沿岸の両

地域の接点という当地域の地域性を明確に示すものであると言える。

羨門部入口に架構される石組構造は遠賀川流域に見られる地域の特徴であり、広く関東などでも見られる。当横穴群はその代表的事例として重要である。

群の構造については、西側の急傾斜地と東側の緩傾斜地、墳丘を伴う横穴墓などで違いが見られ、いくつかの群構成が想定される事を確認した。

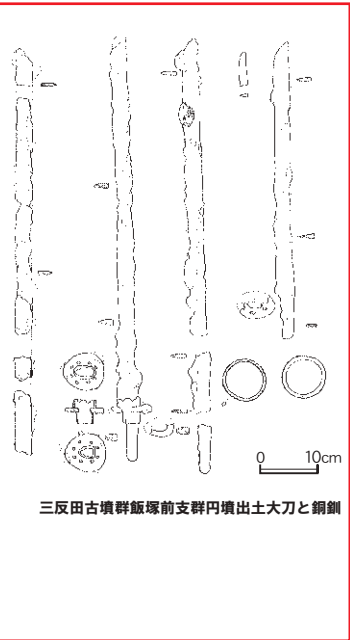
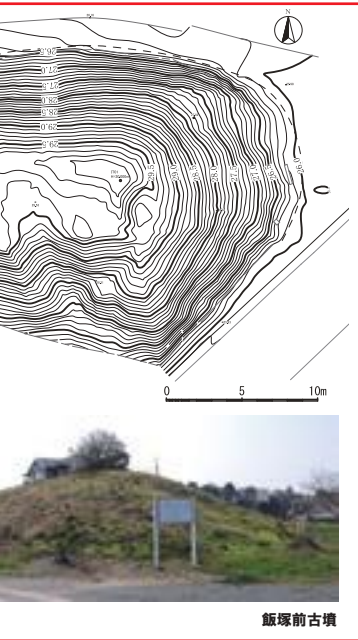
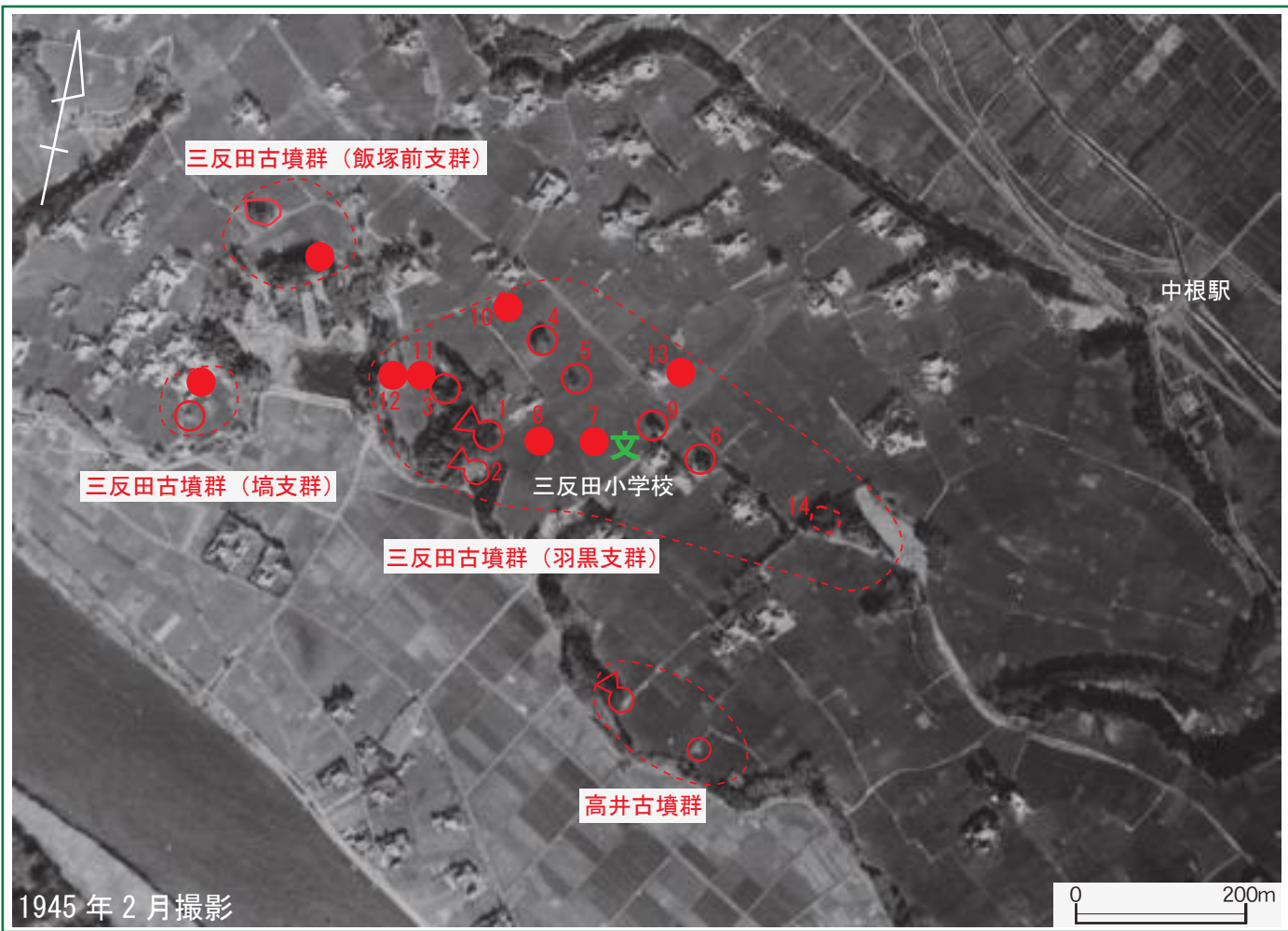
城山横穴群は、横穴群が濃密に分布することで知られる遠賀川流域の諸横穴群の中でも、その地域的特性を顕著に示すものとして代表的な遺跡である。また、規模や密集度の点では全国的に見ても比肩する例は限られており、我が国を代表する横穴群として重要な価値を有している。加えて、地域間交流や階層差を想定させる重要な課題を提起しており、城山横穴群の存在が今後の当地域の歴史解明に寄与するところは大きいと考えられる。



北丘陵西側斜面横穴墓分布状況



須恵器坏に入ったハマグリ



古墳名	墳形	規模(m)	備考
1号墳	前方後円墳	全長30, 後円部径19, 前方部幅18, 後円部高3, 前方部高4	埴輪, 周堀あり。保存状態はよい。
2号墳	前方後円墳	全長23, 後円部径10, 前方部幅8, 高1.5	全体としてくずれていて, 僅かに前方後円墳の特徴を示す。
3号墳	円墳	直径17, 高さ2	墳丘の北側と西側裾部が削られている。埴輪が付近より出土している。
4号墳	円墳	直径20(推定)	墳丘はほとんど削平されて雑木におおわれて畑地に存在する。
5号墳	円墳	直径15~20	小学校敷地内にあり, 墳丘はほとんど削平されており, 小祠が祀られている。
6号墳	円墳	直径約20	南と東側墳丘裾部が削られている。それ以外は原形を保つ。以前人骨が出土している。
7号墳	円墳	直径10	昭和53年の発掘調査で周堀確認。主体部残材あり。須恵器片が出土している。
8号墳	円墳		(箱式)石棺出土。校舎の職員室付近に位置していた。
9号墳	円墳		主体部の石材出土。農協倉庫付近に位置している。
10号墳	円墳		戦前に墳丘消失。人骨が出土したという。
11号墳	円墳		現在畑地となっているが, 地表下に箱式石棺が存在するという。
12号墳	円墳		現在山林であるが, かつて平坦な石棺蓋材が発見されたという。
13号墳	円墳		「妙婦塚」と称されていたらしい。正確な位置は不明確である。
14号墳	前方後円墳?		雑木等が繁茂している中に, 前方後円墳状の高まりがある。

三反田古墳群羽黒支群一覧 ([住谷 1982])

見学ガイド

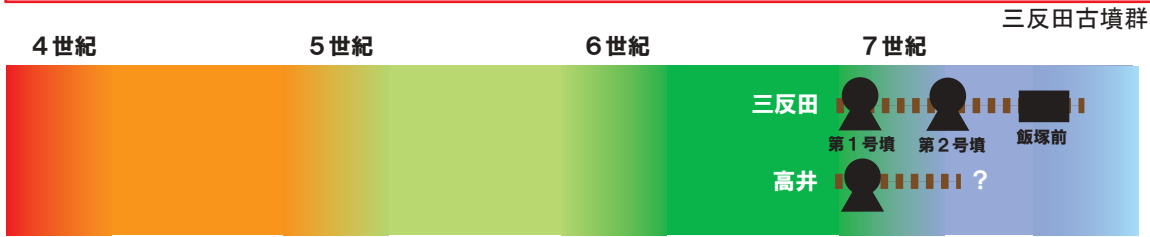
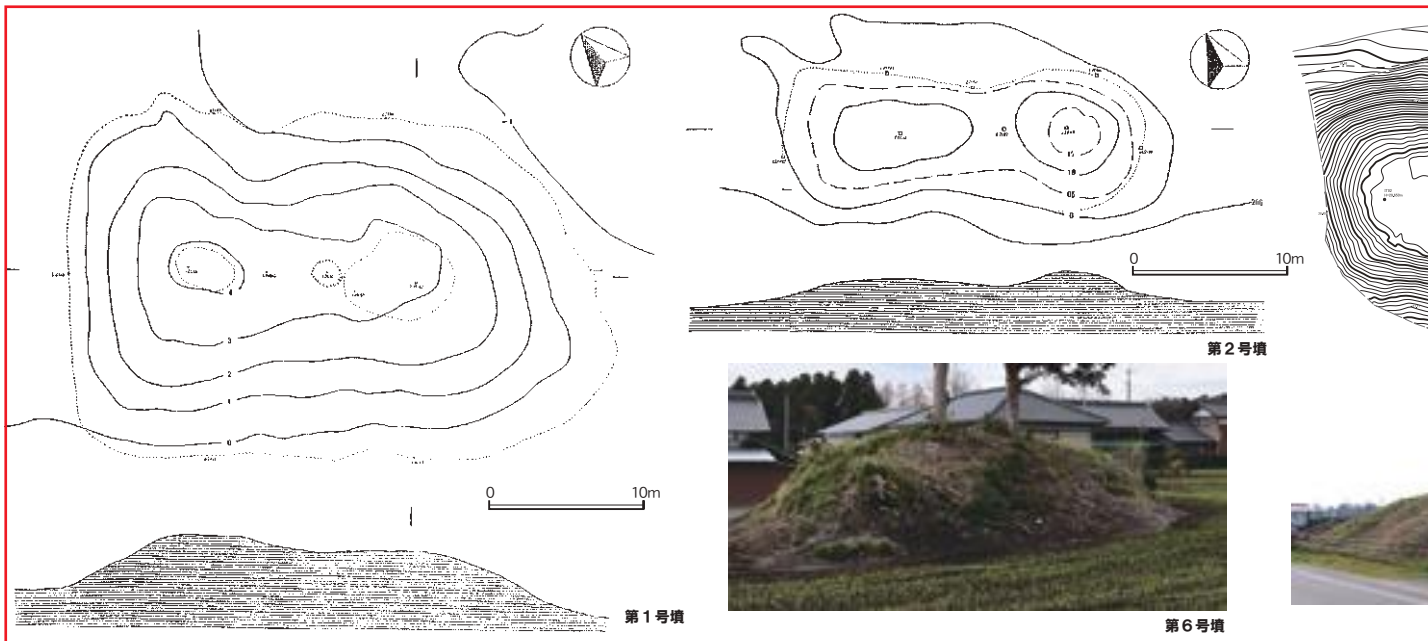
- * 三反田古墳群飯塚前古墳は, 案内看板があり, 見学することが出来ます。その他の三反田古墳群や高井古墳群は私有地内にあるため, 道路から見学してください。
- * 三反田古墳群出土の銅剣は, ひたちなか市埋蔵文化財調査センター標本陳列室に展示してあります。

ひたちなか市の古墳

9 三反田古墳群・高井古墳群

三反田古墳群は、那珂川と中丸川に挟まれた東西に延びる台地上に位置しています。古墳群中には三反田小学校があります。当古墳群は、数基の前方後円墳と円墳を中心とした小古墳群とで形成しており、小古墳群を飯塚前支群、塙支群、羽黒支群と呼んでいます。古墳の数は、飯塚前支群では長方墳1基と円墳10数基、塙支群では円墳10数基、羽黒支群では前方後円墳2基と円墳12基が存在していたとされますが、消失しているものがあるため正確な数はわかりません。現在は前方後円墳2基と長方墳1基、円墳5基が残っています。2基の前方後円墳は羽黒支群に属し、第1号墳は全長30m、後円部高3m、前方部高4mを測り、周溝がみられます。時期は、墳丘の形や埴輪が存在していることから6世紀後半と考えられます。第1号墳の南側に位置する第2号墳は、全長23m、高さ1.5mを測ります。時期は、低い墳丘や埴輪が確認できないことから、7世紀前半と考えられます。第1号墳と第2号墳は、全長が大きなものから小さなものへ、墳丘の高さが高いものから低いものへ、埴輪を樹立するものからしないものへと変化しています。同じような変化は、中丸川を挟んで北側の台地に位置する笠谷古墳群でもみられます。7世紀中頃になると長方墳の飯塚前古墳が造られます。当古墳の詳細については『埋文だより』第43号に掲載してありますが、埋葬施設が2基並んで存在している可能性があり、終末期古墳を考える上で重要な古墳です。これ以外の古墳では、第6号墳で埋葬施設の一部が露出しており、その石材が凝灰質泥岩であることがわかります。出土遺物では、1965年頃飯塚前支群にあった直径約30mの円墳の横穴式石室から、大刀と銅釧、鉄鏃などが出土しています。当古墳群は、6世紀後半から7世紀中頃まで続く古墳群で、近隣の笠谷古墳群や虎塚古墳群、十五郎穴横穴墓群を考える上で注目すべき古墳群です。

高井古墳群は、三反田古墳群のすぐ東に位置しています。現在は前方後円墳1基と円墳1基が残っています。調査を実施していないため詳細はわかりませんが、前方後円墳は横穴式石室の一部が露出しており、埴輪片が散在していることから、6世紀後半の古墳と考えられます。当古墳群は、場所や時期から本来は三反田古墳群の一部と考えられます。



ニニ知識
茨城県の古墳では、墳丘で、前方後円墳が造られています。このことは時期を知る上で参考となります。

* 古墳の場所や市内の古墳の概要については、『埋文だより』第37号をご覧ください。

* 参考文献：住谷光男 1982『勝田市埋蔵文化財分布調査報告書 昭和56年度版』勝田市教育委員会

大塚初重 1979「三反田古墳群」『勝田市史』

埋蔵文化財関係者の大同団結 常総台地研究会が活動を停止してから何年かが経過した。その間に婆良岐考古同人会、領域研究会等が誕生した。それぞれの研究目標をもって活動していた。全県下の研究者や文化財保護行政の担当者

者を網羅し、研究者が抱える問題を解決していくためには文化財関係者の大同団結が不可欠である。そこで諸星さんらとも相談して大同団結に舵を切ることになり、茨城県歴史館にて西宮一男、佐藤次男、川上博義、阿久津久氏らと協議した。佐藤氏から「茨城考古学会」が休眠中であるが解散したわけではないから、新組織の発足については保留したいとの話があったが全県的な研究者の組織結成を目指すことで合意した。

新組織の立ち上げは基本的に留意すべきものがある。第一には学閥の排除。第二には特定の人の組織ではなく、だれでも会員になれる組織であること。第三に徹底した会員平等の原則である。更に会員互恵の原則が保障される必要がある。そして会員一丸となって茨城考古学の発展と埋蔵文化財の保護の前進が図られるという事であろう。

茨城県考古学協会の発足と活動 茨城考古学会の問題は棚上げとして、何回かの協議の結果、「茨城県考古学協会」として発足した。会長に西宮氏、事務局長に鴨志田篤二氏を充てることとした。会長、事務局長の任期は二年として再選なしの方針でスタートした。大同団結を最終

出会い、別れ、そして夢考古学の旅路

第18回 茨城県考古学協会の発足



1995年11月11日 日本考古学協会茨城大会 受付準備
(ひたちなか市文化会館)



川崎 純徳

目的としたが、最初は組織として固まるまでは日本考古学協会を主体として発足し、開かれた会に向けては今後協議することとなった。「再選なし」にはそれなりの理由があった。当時の茨城県内にはいくつかの研究団体があり、一人が役員を長期間続けることは必ずしも大同団結にはならないという雰囲気があった。事業としては調査報告会やシンポジウム等が計画された。協会としては発掘調査や保存運動はしないことにした。会長には阿久津久、高根信和氏等がついたが「再選なし」の方針は無理が生じた。例えばシンポジウムの開催等には長い準備期間が必要となり、一定の期間会長・事務局長を固定して置くべきだとの意見が出た。諸星さんが会長に就任したことが契機となり「再選を妨げない」との会則変更が承認された。それと同時に会員資格を日本考古学協会会員という縛りをなくし当初目指したように全ての人に開放された組織へと脱皮したのである。

シンポジウムは「古墳壁画」「弥生文化」「縄文時代」「旧石器時代」「横穴墓群」「官衙遺跡」「遺跡の底力」「中世城館跡」等について行った。二〇一〇年に創立三〇周年を迎え記念事業として『茨城の考古学散歩』を上梓した。また一九九五年には日本考古学協会茨城大会を開催した。県内のほとんどの研究者の結集体としての茨城県考古学協会は全国的に見ても特筆した存在であろう。行政上の様々な課題に積極的に情報を発信して問題解決にあたってほしいものである。

縄文という文様は、縄を転がして付けられま
すが、それは、縄の切れ端を利用したというも
のではありません。縄文のためだけに製作され
た「縄文原体」に、創意工夫が凝らされていま
す。現代人が縄文土器を製作するのは、粘土で
自分の創作意欲を満たすことではなく、縄文時
代の知恵や技術を理解するための体験というこ
とに、大きな意味があるのです。

縄文には、実は、とても多くの種類がありま
す。最もよく使われているのが、「単節縄文」と
呼ばれている縄文で、素材を「正」に撚って作っ
た「2段の縄」です。これは、縄文時代を通して
様々な型式の土器に使われています。同様に、
「1段の縄」で施文された「無節縄文」も数多くの
型式で見られます。

一番古い縄文土器には、縄文がありません。
ひたちなか市では、後野遺跡で発掘された草創
期の無文土器が一番古い土器になります。その



縄文原体の基礎用語

撚る ねじる
ことです。撚る
向きの違いで
右と左がありま
す。

節 縄文原体を回転圧してできた
文様に見える列です。撚られてできた
原体は回転圧すると、原体を展開し
た圧痕が出来ます。回転方向から少し
傾いて、ひとつ前の段の圧痕が出来ま
す。傾き具合は、撚りの強さによってき
まります

単節 条の中にみられる粒状の単位です。2段以
上の原体に現れます。2段の原体でできる回転圧
痕は1粒が単位となっているので、**単節**縄文と
呼びます。3段の原体でできる回転圧痕は節の中
にさらに数粒の節が見られるので**複節**縄文と
呼びます。

正・反・合 前回の展示で、1段以上の撚りかける時
には、前段の条とは反対向きに撚りかけると説明しました。これを
正の撚りといいます。もし、同じ向きに撚りかけてしまうと、前
段の撚りが戻ってしまい、しっかりと撚りかけられないから
です。しかし、実際には、このように同じ向きに撚りかけて作っ
た縄文原体もあります。このような撚りを**反**の撚りといいます。ま
た、撚りかける2本の条が、右撚りと左撚りの1本ずつの場合、
これを**合**の撚りといいます。この撚り方では、条の一方はさらに
撚りが強くなり、一方は少し撚りが戻りゆるくなります。

西日本では文様が施されなくなる弥生時代で

後、爪形文や隆起線文など土器に装飾が施され
るようになります。次に縄文を持つ土器が顕れます。
1段や2段の縄を利用して縄文を施文します。
市内で一番古い縄文は武田原前遺跡出土の草創
期の土器で、「右撚り1段の縄」の圧痕が見えま
す。早期に入っても、原体の種類はあまり増え
ません。

前期は全国的に、複雑な縄文を土器に施すよ
うになります。3本以上を撚り合わせて作る
「0段多条」の縄を使って原体を作るようになり
ます。また、隣り合う節が異なる形状をする
「異節縄文」、条ごとに違う文様を呈する「異条
縄文」、4本を丸編みにして作った組紐を原体
とする「組紐文」など、様々な縄文原体を使っ
て施文する土器群が現れます。中期以降はまた、
複雑な縄文原体による文様は作られなくなりま
す。

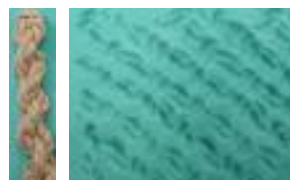


十五郎穴横穴墓群の報告書を刊行しました！

2007年度から2014年度にかけて実施した調
査をまとめた報告書です。市内の図書館等で閲覧で
きます。また、下記のホームページよりPDF版を
ダウンロードして閲覧することも出来ます。
<http://sitereports.nabunken.go.jp/ja/18239>



異条縄文



異節縄文



組紐文

すが、ひたちなか市域など東日本では、弥生土
器にも縄文が施されています。中期から後期に
かけて縄文が複雑になり、十王台式土器がこの
地域では有名で、1段の縄に1段の縄を絡げた
「付加条縄文」と呼ばれる縄文が施文されていま
す。

(菊池順子)

いそぎきひがし ひたちなか市磯崎東古墳群の調査

— 2011・2012・2015・2016年 —

稲田 健一



磯崎東古墳群は、ひたちなか市の臨海部に位置し、50基以上の古墳が群集する古墳群です。現在までに10回以上の発掘調査が実施され、大刀や鏡などのすばらしい遺物が数多く出土しています。2011年には海岸を南北に走る道路脇の崖面で、2011年から2012年には磯崎小学校敷地内で、2015年と2016年には2011年と同じ道路脇の崖面で調査を実施し、横穴式石室や石棺墓を多数確認しました。ここでは、それらの調査の概要についてご紹介します。

1 はじめに

ひたちなか市阿字ヶ浦から平磯地区にかけての臨海部には、市域最大規模を誇る川子塚古墳や大小の古墳を有する磯崎東・磯合・入道・三ツ塚・新道といった古墳群が存在している。これらの古墳群でもっとも古墳が群集しているのが磯崎東古墳群である。古墳の数は、湮滅しているものがあるため正確な数は不明だが、過去の分布調査では五四基の古墳の存在が記載されている(図1)。

当古墳群では、二〇一一年に海岸線の崖面に露出した石棺墓の調査、二〇一一年〜二〇一二年に地震で被災した磯崎小学校の校舎建て替えに伴う調査、二〇一五年と二〇一六年に二〇一一年の石棺墓と同じ崖面の法面対策工事に伴う調査が実施された。今後、これらの正式報告を予定しているが、磯崎東古墳群を検討する上で重要な調査であったため、ここでは調査の概要を報告し、遺跡研究の一助としたい。なお、今回確認された古墳の名称については、海岸部の崖面については調査年と確認された順の番号を、磯崎小学校敷地内の古墳については「磯崎小学校敷地内」を番号の前に付すものとする。

2 調査について

(一) 磯崎小学校敷地内古墳と石室

二〇一一年三月の地震により磯崎小学校の校舎が被災し、校舎建て替えに伴う調査を実施す

ることとなった。調査は、学校の校庭を対象として、八〜九月に試掘調査をひたちなか市生活文化・スポーツ公社が、十二月〜二〇一二年三月に本調査をひたちなか市教育委員会が実施した。調査では円墳一基と周溝を有さない横穴式石室四基、土坑一基を検出した(図2)。

第一号墳とした円墳は、墳丘と石室の天井部が失われた状態で確認された。規模は、直径が周溝外縁で19・6m、周溝上端幅が2・5m、周溝深さが90cmを測る。埋葬施設は海岸の石を利用した横穴式石室で、規模は玄室長2・6m、玄室幅1・5m、玄室高70cm、玄門部幅56cm、羨道部長3・9mを測る。羨道部は周溝と接する。玄門部は閉塞された状態だった。玄室からは、人骨や大刀片、水晶製の切子玉、滑石製玉、ガラス製玉等が出土した。

周溝を有さない石室は、円墳と同じく海岸の石を利用した横穴式石室で、天井部は残存していない。第一号石室は、玄室長2・1m、玄室幅1・1m、玄室高1・0m、玄門部幅50cm、羨道部長2・4mを測る石室である。羨道部は地表から玄門部に向かって傾斜している。玄門部は閉塞された状態だった。玄室からは人骨が出土している。また、覆土中から須恵器のフラスコ形長頸瓶と思われる破片が出土している。

第二号石室は、玄室長1・9m、玄室幅80cm、玄室高60cm、玄門部幅50cm、羨道部長1・8mを測る石室である。羨道部は第一号石室同様に

*埋葬施設の計測値は内寸。



図1 磯崎東古墳群古墳位置図
 ([井上ほか 1990] に一部追加)

地表から玄門部に向かって傾斜している。玄室からは人骨が出土している。

第三号石室は、石材の多くが失われた状態であった。石室の規模は、推定で玄室長1・9 m、玄室幅80 cm、羨道部長1・8 mを測る。出土遺物はない。

第四号石室は、羨道部と思われる部分のみを確認した。玄室は校舎の下に位置すると思われる。出土遺物はない。

今回調査を実施した古墳の時期については、出土遺物から第一号墳と第一号石室が七世紀前

半と推定される。また、周溝を有さない石室については、その構造が過去に調査例のある三ツ塚古墳群第二号墳と類似するため、それと同じであれば高さ1 mほどの低い墳丘があった可能性が考えられる。

(2) 二〇一一年の調査

第二〇一一―一〇九号石棺墓は二〇〇九年に崖面の一部が崩れたことにより露出した(図3)。石棺墓の場所は、標高約20 mの崖面の高所に位置していたためすぐに調査を実施できず、調査

用の足場を設置して二〇一一年の四月にひたちなか市教育委員会が実施した。石棺は、二〇一一年三月の地震の影響などで海側の側壁すべてと天井部の一部が崩れ落ちていた。石棺の構造は海岸の石を利用して構築されており、床面には石がなく、海砂が敷かれていた。石棺の規模は、長さ約1・5 m、残存幅25 cmを測る。石棺内からは人骨一体のみが出土した。人骨は谷畑美帆氏により老年女性と推定されている。

(3) 二〇一五年の調査(図3・4)

二〇一五年以降の調査は、茨城県教育庁総務企画部文化課が工事立会の緊急調査として実施した。二〇一五年の調査は三月に実施した。

第二〇一五―一〇九号石棺墓は崖面上位の標高約20 mで確認された。石棺は崖面に一部が露出する形で確認され、調査の結果石材の大半が崩落しており、石棺の一部のみしか残存していないことが判明した。そのため、規模等は不明である。

第二〇一五―一〇二号石棺墓は崖面上位の標高約22 mで確認された。石棺の規模は、長さ約1・7 m、幅28〜40 cm、高さ20〜30 cmを測る。石棺は蓋石があり、石棺内への土砂の流れ込みは少なかった。石棺内からは人骨が上下に重なった状態で二体出土した。人骨の専門家による鑑定は行っていないが、二体とも男性と推定される。注目されるのは、上位の人骨の全体に赤色顔料がまかれたような状態で確認されたことで

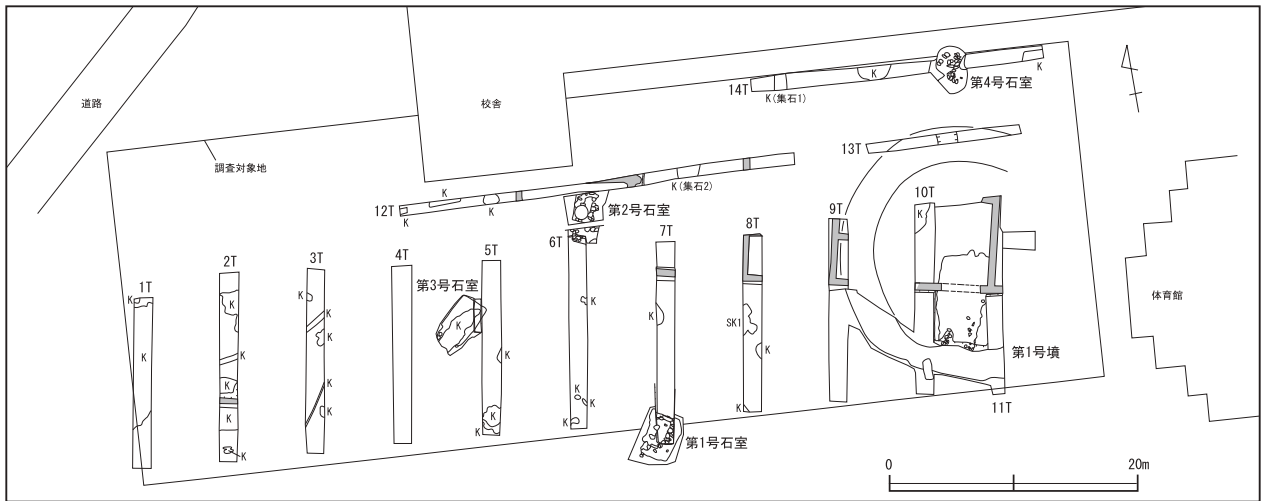


図2 磯崎東古墳群 2011 年調査区磯崎小学校敷地内古墳位置図 ([佐々木 2012] より転載)



第 1 号墳全景



第 1 号墳玄門部閉塞状況



第 1 号墳玄室



第 1 号石室



第 2 号石室



第 3 号石室



第 4 号石室羨道部

磯崎東古墳群 2011 ~ 2012 年調査区磯崎小学校敷地内古墳と石室

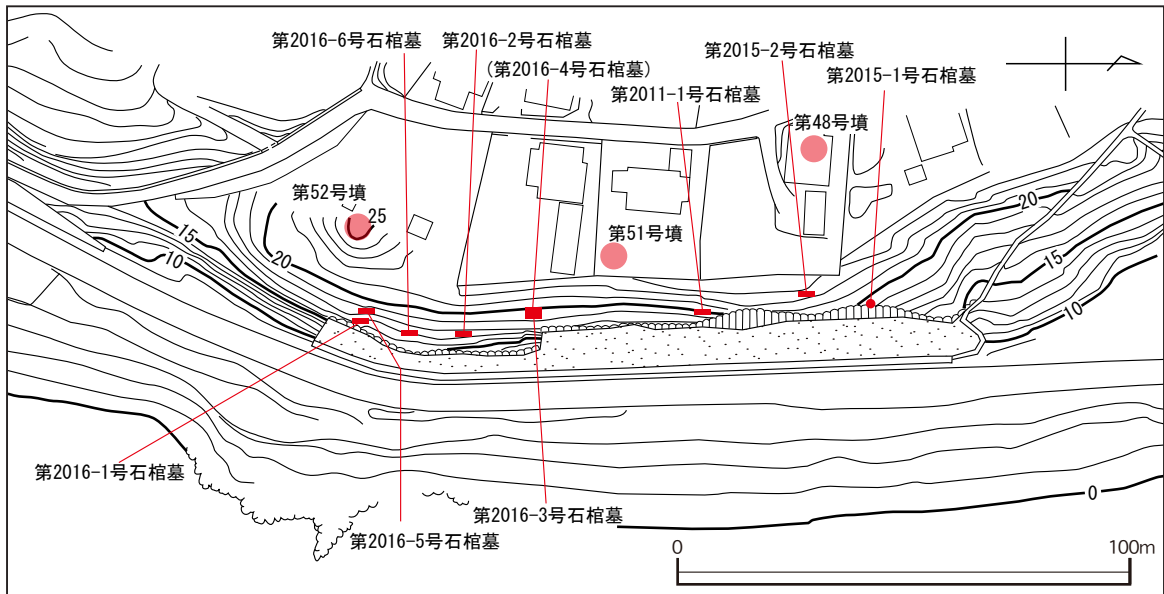


图3 磯崎東古墳群 2011・2015・2016年調査区石坟墓位置图

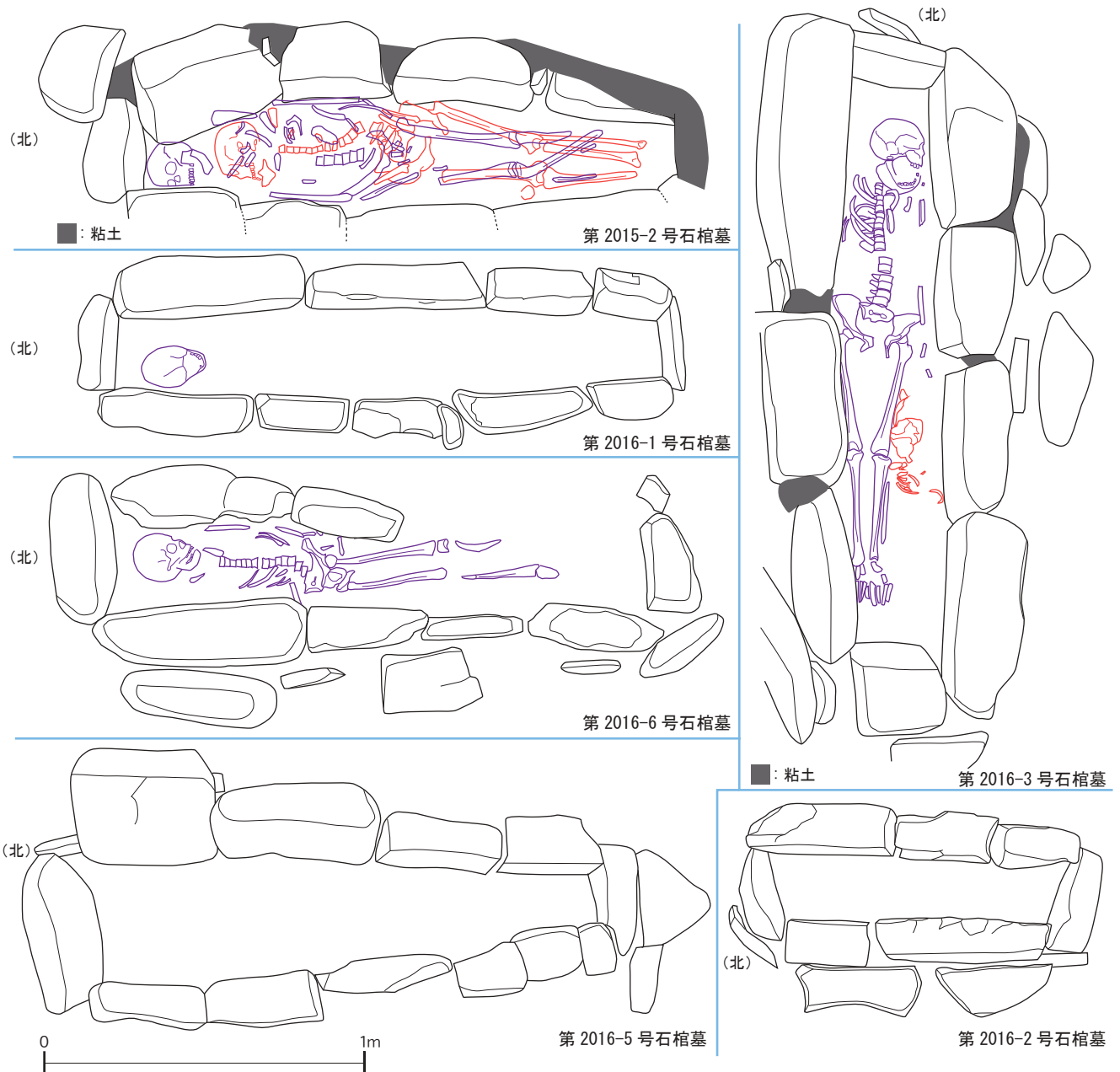


图4 磯崎東古墳群 2015・2016年調査区石坟墓略測图 (図は写真をトレースして作成)



第 2011-1 号石棺墓



調査区前の海岸の石



第 2015-1 号石棺墓

磯崎東古墳群 2011・2015 年調査区石棺墓と海岸の石

ある。この顔料については、筑波大学の谷口陽子氏に分析していただいたところ、ベンガラであることが判明している。

(4) 二〇一六年の調査 (図 3・4)

調査は二〇一六年一〇月に実施した。

第二〇一六一号石棺墓は崖面中位の標高約 16 m で確認された。石棺の規模は、長さ約 1.7 m、幅 19 ～ 28 cm、高さ 25 cm 前後を測る。石棺は蓋石があったが、石棺内へ土砂が流れ込んでいた。石棺内からは一体の人骨の頭蓋骨のみが出た。

第二〇一六一号石棺墓は崖面中位の標高約

18 m で確認された。石棺の規模は、長さ約 1 m、幅 26 cm 前後、高さ 12 ～ 17 cm を測る。当石棺は他の石棺と比べて小さい。石棺は蓋石があったが、石棺内から人骨は検出されなかった。

第二〇一六一号石棺墓は崖面上位の標高約 19 m で確認された。石棺の規模は、長さ約 1.8 m、幅 28 ～ 35 cm、高さ 20 cm 前後を測る。石棺は蓋石があり、石と石の間には白色粘土が充填されていたため、石棺内への土砂の流れ込みは少ない。石棺内からは二体の人骨が出土した。一体は女性と推定される。もう一体は足の脇から出土し、骨の大きさから幼児と思われる。なお、当石棺の崖側に並行してもう一つの石棺墓(第二〇一六一四号石棺墓)の存在を確認したが、工事に支障がないため調査はしていない。

第二〇一六一五号石棺墓は崖面上位の標高約 18 m で確認された。石棺の規模は、長さ約 1.7 m、幅 32 ～ 45 cm、高さ 25 cm 前後を測る。石棺は蓋石があったが、石棺内には土砂が天井まで入り込んでおり、人骨は検出されなかった。

第二〇一六一六号石棺墓は崖面中位の標高約 15 m で確認された。石棺の規模は、長さ約 1.9 m、幅 23 cm 前後、高さ 25 cm 前後を測る。石棺は蓋石があったが、石棺内へ土砂が流れ込んでいた。石棺内からは一体の人骨が出土した。

これらの新たに確認された石棺墓は、海岸の石を利用し、基本的には短軸方向に一つ、長軸方向に四つの石で石棺を構成している。これら

の石材は、磯崎小学校で確認された古墳や石室の石材よりはやや小さい。石棺墓はほぼ全てが南北方向に主軸をもち、確認された人骨の頭位は北である。床面には石材はなく、厚さ 2 cm ほどの海砂が敷かれていた。石棺墓の出土位置は崖面の最上位から中位にかけて二段もしくは三段に配置され、その配置はまるで横穴墓のようである。副葬品は、石棺内の土も全て持ち帰り選別も行っているが確認できない。そのため、これらの石棺墓の時期は不明である。

3 おわりに

今回の調査では、墳丘を有するものやないもの、埋葬施設が横穴式石室や石棺といった、一つの古墳群中に様々な古墳が存在していることが判った。また、台地平坦部には墳丘や横穴式石室を有する古墳、台地斜面部には墳丘を持たない石棺墓といった、場所による古墳の違いも窺える。とくに海が目の前に広がる石棺墓の立地からは、被葬者の海への強いこだわりが感じられる。今後、さらに検討を続け、造墓集団の性格を明らかにしたい。

参考文献 稲田健二(二〇一四)「イワキとヒタチ」『学術研究会集 海の古墳を考えるⅣ 列島東北部太平洋沿岸の横穴と遠隔地交流』第 4 回海の古墳を考える会／井上義安ほか一九九〇『那珂湊市磯崎東古墳群』那珂湊市磯崎東古墳群発掘調査会／佐々木義則二〇一二『磯崎東古墳群(第 8 次調査)』平成 23 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書「ひたちなか市教育委員会・財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社／西川修二(二〇一六)「相模湾沿岸部における古墳時代の臨海性墓制について」『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書(株)齊藤建設

*報告にあたり、以下の方々に協力いただきました(敬称略)：荒詩克一郎 梅田由子 後藤孝行 小林孝秀 齊藤新 齋藤貴史 谷口陽子 谷畑美帆 西川修一 三井猛 茨城県教育庁総務企画部文化課

文の々 埋センターの日 2016 後期

10月

4 内手遺跡試掘調査終了／4-5 向坪遺跡試掘調査／5 まりこふん氏
下見」



7 野田市緑と水のまちづくり見学
／12 田彦小学校3年生出張授業
「古代の生活」／12-18 磯合古墳群試掘調査／13 齋藤直樹氏(明治大学生)
資料調査(銚子宮「号墳ほか馬形墳輪」)



15 ふるさと考古学⑦「さわって楽しむ考古学」(講師・広瀬浩二郎氏)／19 筑波台遺跡試掘調査開始
／21 『十五郎穴横穴墓群』東日本最大

級の横穴墓群の調査」発行／22 ふるさと

考古学⑧「記録する考古学」(講師・三井猛氏・梅田由子氏)／ワ
ンケースミュージアム41「1から
の縄文原体」開始／27 三反田小学
校6年生社会科見学／常陸太田市
山田小学校5年生社会科見学／は
とバスツアー「古墳にコーフン!
はにわにハニカミ!? まりこふんと
行くはじめての古墳」虎塚古墳壁
画特別公開」見学／27-30 虎塚
古墳一般公開／28 国立歴史民俗
博物館友の会見学／29 カボチャ
の種の会見学／はとバスツアー見
学／クラブツーリズム見学／31
『埋文だより』第45号発行

11月

3 はとバスツアー見学／3-5 虎塚
古墳一般公開／4 筑波台遺跡試掘
調査終了／阿字ヶ浦小学校6年生
社会科見学／静岡新聞カルチャー
センタ SBS 学園見学／5 ふるさと
と考古学⑨「伝える考古学」(講師・
堀江武史氏)／はとバスツアー見
学／6 ふるさと考古学⑩「壁画の
考古学」(講師・堀江武史氏)／は
とバスツアー見学／8-9 勝田第
三中学校2年生職場体験／8-9 堀

口遺跡試掘調査／15-17 雷遺跡
試掘調査／19 ふるさと考古学⑪
「フィールド探検」(講師・矢野徳
也氏)／22 金上埴遺跡試掘調査開

始／25 野本雄太氏(明治大学生)資料
調査(銚子宮古墳群ほか墳輪)／26 サイ
クリングDEひたちなか2016 見
学／29 笠間市立北川根小学校6
年生社会科見学」



30 鷹ノ巣遺跡本調査終了
12月
3 金上埴遺跡試掘調査終了／4 ふ
るさと考古学⑫「なんだか楽しい
考古学」(講師・さかいひろこ氏)
／みどり市ボランティア団体見学
／8 デイサービスなどの木見学
／9 中根小学校6年生社会科見学
／飯能市郷土館より資料返却(武田
西埴遺跡ほか須恵器)／ニワンケース
ミュージアム41終了／13 上高津
ふるさと歴史の広場より資料返却
(武田遺跡群炭化種子ほか)／13-16 黒袴
遺跡試掘調査／16 荒谷地区試掘

遺跡試掘調査

虎塚古墳 花便り

18 イカリソウ



2015.4.22

虎塚古墳周辺の花は小さく、毎年決まった場所に咲かな
いものも多々あることから、花との出会いは一期一会です。
そのため、私一人では花を見逃してしまうことがあります。
ですが、最近では職場の仲間から花の情報をもらせるため、
より多くの花と出会うようになりました。今回ご紹介す
る花の「イカリソウ(錨草)」もその一つです。
イカリソウはメギ科イカリソウ属の植物で、高さが二〇
〜四〇cmほどの多年草です。花は四枚の花弁が距(きよ)
を突出し下向きに開き、淡い紫色です。名前の由来は、そ
の特異な姿が船の錨に似ているからだそうです。
今回の花は、虎塚古墳の墳丘に咲いていました。虎塚古
墳は海との関連が考えられている古墳なので、虎塚古墳に
咲く花としてはびつたりの花かもしれません。(稲田健一)

調査開始 / 15BS ジャパンローカル線の旅取材



21-22 市毛下坪遺跡試掘調査

1月

1FM ぱるるん Precious 出演



24-25 宮前遺跡試掘調査 / 26 鈴

木英一氏より資料寄贈【下原遺跡石皿】

27 記録集第8回『古墳時代のはじまりを探る』発行



29 第14回企画展「古代常陸の製塩土器」開始

2月

北條芳隆氏（東海大学文学部）資料見

学【岡田遺跡紡績車ほか】



18 ひたちなか市の考古学第10回

①「古代東国の塩生産」(講師・田尾誠敏氏) / 25 ひたちなか市の考古学第10回②「見えない塩を考える」(講師・坂本和俊氏)

3月

1 国士舘大学考古学研究室視察 / 2 前渡小学校3年生出張授業



4 ひたちなか市の考古学第10回

③「茨城県における古代の塩生産」(講師・佐々木義則) / 5 ひたちなか踊り「素敵な明日のために2017 Ver.」動画撮影 B 虎塚古墳【下段右端】

7-10 雷土B遺跡試掘調査 / 8 千葉県香取市小見川文化協会見学

2 ひたちなか市の考古学第10

入館者状況 (2016.10.1 ~ 2017.3.31)

月	開館日数	個人		団体		計
		(人)	(団体)	(人)	(人)	
10月	26	767	9 (1)	239 (34)	1006	
11月	26	948	11 (4)	240 (71)	1188	
12月	23	89	8 (1)	198 (61)	287	
1月	23	106	1 (0)	6 (0)	112	
2月	24	141	3 (0)	101 (0)	242	
3月	27	483	4 (1)	165 (40)	648	
合計	149	2534	36 (7)	949 (206)	3483	

()内は学校数

ひたちなか市埋蔵文化財調査センター及び(公財)ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社が開催する事業は『ひたちなか市報』及び下記のホームページでお知らせいたします。
<http://business4.plala.or.jp/h-lcs/>

26 早川麗司氏(毛野考古学研究所資料見学【本郷東遺跡土師器ほか】30-31 虎塚古墳一般公開 / 31 『埋文だより』第46号発行



回④「東北地方における塩の生産と流通」(講師・高橋透氏) / 13-24 三反田遺跡・三反田古墳群試掘調査 / 14 『平成28年度市内遺跡発掘調査報告書』発行 / 24 荒谷地区試掘調査終了



編集後記の 笑う埴輪

青森県立郷土館の常設展示には、縄文を施文した道具「縄文原体」が解説されていて、広々とした粘土板の上に縄文原体を転がすことができる。傍らにはタオルが準備されていた。油粘土に触れた手を拭うためのもので、施文を体験した観覧者への心遣いも感じられるのだが、そのままの手で展示ケースに触れると大変だというのが実情なのだろう。国学院大学博物館には、多種多様な縄文原体と回転圧痕、実際に施文された土器の破片を並べた引き出しがあり、興味が向けばそれを開けて観覧するという仕掛けになっている。常設とはならないが、今年のワンケース・ミュージアムでも、縄文原体についての展示を開催した。この展示は、ポスター・チラシの構想の方がかなり前にできあがっていた。

お気づきだろうか。あの付加条縄文の原体は、二本のストローの紙袋では作ることができない。材料には三分分の紙袋が必要。ということで、テーブルには三人が座っているという設定なのであった。二人分の単節縄文にもう一人分の糸が絡みつく。このような状況の後、「火宅の人」となった友人がいる。その場が、果たして縄文原体を擦れるような雰囲気なのか、経験のない私にはわからない。



ひたちなか埋文だより 第46号

編集 公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

2017年3月31日発行

発行 ひたちなか市埋蔵文化財調査センター

〒312-0011 茨城県ひたちなか市中根 3499 ☎ 029-276-8311 FAX 029-276-3699

印刷 株式会社 高野高速印刷

表紙のモデルは小西竜世さんです。